ASAHI GAWASOU DAYORI

昨冬よりグレードアップした「むすびの園」のイルミネーション（8面に関連記事）

旭川荘だより

vol. 210

2016.01.01 発行

CONTENTS

P3 「グラチア音楽賞」コンサート
P5 中国銀行でアート作品展示
P6 りんごhanko ハレマチで販売開始
P7 レシピ きんとん2種
P8 被災地医療テーマに研修

発行／社会福祉法人 旭川荘
〒703-8555 岡山市北区祇園866
TEL 086-275-0131 FAX 086-275-5640
http://www.asahigawasou.or.jp

「りんごjam」2種新発売（6面に関連記事）

2度目の選択と集中

理事長　末光　茂

昨年は3月13日の江草安彦先生の突然のご逝去のあと、オペラ「アマールと夜の訪問者たち」の上演、江草先生を追悼する講演会ならびに写真展、9月の「悠久の庭」の整備と旭川学園の全面建て替え完成、10月の真庭市での顕彰碑の除幕と真庭地域センター開設1周年記念式典、そして11月10日の60周年記念式典と大きな事業が目白押しに続きました。偉大なリーダーを突然失ったあとだけに、何よりも心配したのは、混乱でした。

幸いにも、理事・評議員そして職員をはじめ利用者、家族、そしてボランティアの方々等の温かいご支援のもと、諸事業をつつがなく実施することができました。感謝です。

しかし、これからが大変です。江草先生亡きあとに、残された我々は力を寄せ合い、集団指導体制で臨まねばなりません。その際、今までやってきたことがすべて継続できるとは限りません。状況の変化とともに、江草先生亡きあとの旭川荘の力量を冷静に自己評価した上で、取り組まねばなりません。

8年前に理事長職を命ぜられたとき、初年度は「混乱なき継承」、2年目には「選択と集中」を掲げました。こうした状況の中、今年は「2度目の選択と集中」をテーマに掲げます。

まず残念なことには、医師の確保困難のため、今年度いっぱいで備中診療所の指定管理を高梁市に返上せざるをえません。

一方では、高齢知的障害者、なかでも認知症の知的障害者や、「医療的ケア児」そして「吃音」への対応、江草先生が最後に取り組もうとされた障害をもつ方々の芸術・文化活動、さらには中国以外の東アジアでの貢献等、新しい取り組みも求められています。

2025年問題を視野に入れた「旭川荘2025年プラン」の策定には、全職員の英知を結集しなければなりません。心新たに1年のスタートを切りたいものです。

新年のご挨拶

旭川荘友の会　会長　延原　正

新年を迎え、皆様方のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

昨年は、旭川荘に創設期から携わり、偉大な指導者として活躍された江草安彦先生が亡くなりました。私も先生から多くを学んだ一人として、大変に悲しい思いをいたしました。

そうした中、旭川荘は60周年を迎え、新しい旭川学園や療育・医療センターも動き始めました。名誉県民となられた先生の後を継ぎ、末光茂理事長をはじめ役職員の皆さんが一致団結して精励しようという決意を、様々な式典の中で感じることができました。

これからも旭川荘は、時代の要請や県民の声に応え、かけがえのない施設であり続けると確信しております。友の会といたしましても益々、力を尽くしてご支援させていただきたいと存じます。

旭川荘家族会等連絡協議会　会長　宮川　健吾

新たなる希望を持って新年を迎えました。 今年も昨年以上に各施設において活動、支援、協力よろしくお願いします。

旭川荘家族会等連絡協議会では、創立50周年の際に「むすびの園」に時計台を寄付。60周年を迎えた昨年は「悠久の庭」の整備にあたり、連絡協議会として協力を呼びかけたところ各施設家族会より、多くの寄付をいただきました。本当にありがとうございました。

立派な庭が完成いたしました。そこには旭川荘の礎を築いた3人の先生のレリーフ像、江草名誉理事長の「道終りなし」の碑、旭川荘設立趣意書と沿革を記した碑、香淳皇后御歌碑が立っています。家族の皆様、一度見に来てください。

今後も旭川荘が70周年、80周年と発展して行く姿を期待しています。 本年も家族と旭川荘の両輪でがんばって参りましょう。

「グラチア音楽賞」受賞記念コンサート
佐野隆哉さんがピアノで約300人魅了

クイズに手を挙げて答える観客

第3回「グラチア音楽賞」の授賞式と受賞記念コンサートが12月9日、旭川荘厚生専門学院で開催され、受賞したピアニストの佐野隆哉さんが、“クロイツァーゆかりのピアノ”を演奏。荘内利用者や職員、学生ら約300人を魅了しました。

同音楽賞は「グラチア・アート・プロジェクト（注：旭川荘だより197号参照）」の一環で、人間の生き方や哲学に強い関心を持っている逸材を発掘しようと創設されたもので、毎年若手演奏家に贈られています。

コンサート前に行われた授賞式では、末光茂理事長から佐野さんへ賞状が授与され、同プロジェクト考案者の1人である瀧井敬子さん（元東京藝術大学教授）から副賞が贈呈されました。続いて、末光理事長が「佐野さんには60周年祝賀会でも演奏していただき、人柄の良さや謙虚な姿勢に感銘を受けた。受賞にふさわしい」とあいさつ。瀧井さんは、同プロジェクトでCDを制作したことや、初めて音響反射板を舞台上に設置したことを紹介しました。

演奏する佐野さん。周囲には音響反射板を設置

佐野さんは演奏前に「ピアニストの1日の練習時間は？」などのクイズを出題。「ゆったりした気分で聴いてください」と観客を和ませ、モーツァルト作曲の「トルコ行進曲」など全8曲を披露しました。アンコールでは、リスト作曲「愛の夢第3番」で瀧井さんの誕生日を祝うサプライズ演出もあり、会場から大きな拍手が送られました。

演奏後、吉備ワークホーム利用者の高田孝明さんは「生の演奏を間近で聴けて嬉しい。ピアノの迫力に感動した」と話していました。

「知的障害者の大学教育への道」
「カレッジ」創設の長谷川氏が講演

長谷川氏を講師に招いた医療福祉学会の特別講演

第33回旭川荘医療福祉学会が12月10、11日、旭川荘療育・医療センター多目的ホールで開催されました。

同学会は医療福祉現場の最前線で働く職員が、日常業務の中で実践した研究やさまざまな課題に対する工夫、海外研修で得た学びの成果などを発表する場として毎年開催。昨年の同学会で前田研究奨励賞を受けた重症心身障害分野2題の研究報告に続き、施設統合に伴う利用者家族の想いに関する意識調査や、障害児施設での食育、余暇支援、重度知的障害者の自己決定を支える試みなど一般演題37題の発表があり、意見交換が行われました。

また10日には、特別支援学校高等部の卒業生が自立を目指して学ぶ“福祉型大学”「カレッジ」（福祉サービス事業所）を福岡、長崎、東京で運営する社会福祉法人・鞍手ゆたか福祉会（福岡県）理事長の長谷川正人氏が「知的障害者の大学教育への道」と題して特別講演しました。

長谷川氏は、人生に挫折し、生きづらさを抱える知的障害の人たちと関わる中で「彼らにとって、今の教育年限は短すぎる」と感じてカレッジを立ち上げたことを紹介。国連の障害者権利条約の趣旨に沿って知的障害者に高等教育の門戸を開く米国、オーストラリアなどの先進例や、カレッジの取り組みに触れながら「彼らは多感な青年期にいろいろな人と関わり、多くの経験を積む中で自分を成長させている」と語りました。

さらに普通高校では、卒業生の70％が大学や専門学校に進学するのに対し、特別支援学校ではわずか0.7％にとどまるとのデータを元に「健常児と障害児で100倍の格差があり、障害者権利条約に違反している」と指摘。「日本でも知的障害者が大学という選択肢を得られる時代が来る。旭川荘でも、高等教育の保障に向けた取り組みをすすめていただきたい」と呼び掛けました。

（特別講演の要旨は次号で紹介します）

特集

アートがいっぱい

「第６回アートギャラリー展」の受賞作品決定

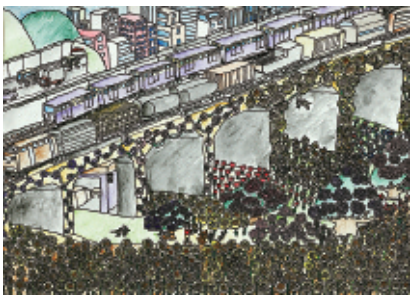
旭川荘アートギャラリーはこのほど、「第6回アートギャラリー展」の受賞作品を発表しました。同ギャラリー開館を記念して毎年行ってきた「特別展」が今回から名称を改めて開催することになりました。

前回を上回る荘内20施設、180人から357点が出品。審査の結果、以下の11点が受賞作品に選ばれました。12月11日には旭川荘本部で表彰式があり、末光茂理事長が受賞者に表彰状と記念品を手渡し「荘内外で多くの人に見ていただき、感動を伝えてほしい」とあいさつ。最優秀の「江草安彦賞」に選ばれた望の丘ワークセンターの物部紘二郎さんが「自分の絵が一番に選ばれて嬉しい」と喜びを述べると、出席者から大きな拍手が送られました。

賞状を手に記念撮影する受賞者（前列）ら

12月1日から開催中の「アートギャラリー展」では、受賞作品に入選作品の一部を加えた計53点を展示しています。2月24日までの会期中、平日午前9時から午後4時まで、入場無料でご覧いただけます。

江草安彦賞「お花畑を走る鉄道」
物部 紘二郎 さん
（望の丘ワークセンター）



理事長賞「街の風景」
青木 孝雄 さん
（デイセンターあかしや）

岡山県食品卸同業会 会長賞「花火」
谷口 誠 さん（たかはし松風寮）

アートギャラリー名誉館長賞「Myself」
櫻井 清一 さん（いづみ寮）

旭川荘友の会会長賞
「いろいろなのりもの」
近田 敏明 さん（あおば）

特選

「紅葉の秋」	文徳 日出世 さん	（いんべ通園センター）
「猿」	柴田 卓哉 さん	（くわのみどりの家）
「野外コンサート３」	糸濵 とし子 さん	（のぞみ寮）
「コルマールの木組みの家 西川克己 模写」	谷 邦彦 さん	（くわのみどりの家）
「ひまわり畑の真ん中で」	相馬 宏範 さん	（デイセンターあかしや）
「アトリエにて」	下村 住子 さん	（竜ノ口寮）

【お問い合わせ】旭川荘アートギャラリー
岡山市北区祇園866（旭川学園隣）／電話　086-275-4647

アートギャラリー移動展 中国銀行本店で新たに開催

旭川荘アートギャラリー移動展が、12月18日から新たに中国銀行本店（岡山市北区丸の内）で始まりました。

同ギャラリーでは、より多くの方々に作品をご覧いただけるよう、荘外へ“出張展示”する「移動展」を実施。これまでに美術館のほかトマト銀行、みずほ証券、旭東病院などで開催してきました。今回、中国銀行のご協力を得て、同行本店において初めての「移動展」となりました。

作品を搬入した17日には、同ギャラリーの出口隆一館長が行員の皆さんにギャラリーの活動や作品、作者の障害特性について説明。手が不自由なため、筆を口にくわえて描く人がいることや、手本なしに過去に見たイメージだけで細部まで表現する人がいるというエピソードを紹介すると、熱心に耳を傾けていました。

作品の隣には利用者の制作風景を写した写真も

立体作品も並ぶ２階の展示スペース

1階と2階に設けられた2カ所の展示スペースには、作者の心象風景を描いた「夕焼け」や、精緻な切り絵「西川通り 水の階段」、帽子を被ったユニークな顔を表現した立体作品「ヨシダWorld」など計16点を展示。1月18日に作品を入れ替え、2月中旬まで開催します。

イオンでもアート作品展示 ゆうあい福祉展・ナイスハートバザール

障害のある人のアート作品や製品を紹介する「ゆうあい福祉展・ナイスハートバザール」が12月8日、9日、イオンモール岡山（同市北区下石井）で開催され、旭川荘から12施設が出展しました。

このイベントは、「障害者週間」啓発事業として行われたもので、県と県知的障害者福祉協会が主催していた同福祉展と、岡山セルプセンターが行ってきた同バザールを今回初めて合同で開催。にぎわいのある同店1階の未来スクエアが会場に選ばれました。今回は、障害者の社会参加や、住民の理解の一層の促進を図るための製品販売に加えて、広い会場を活かして障害者のアート作品の展示も合わせて行われました。

木製地図パズルに関心を示す買い物客

会場のパネルと特設コーナーには、かえで寮、旭川学園、真庭地域センターなどの利用者が制作した水彩画や貼り絵、織物、陶芸作品を展示。こぎん刺繍の作品を目にした女性は「細かな作業をされ、すごいですね」と感心していました。

会場には過去に賞を受けたアートギャラリーの作品も

このほか、県内の34施設・事業所が手がけた手工芸品や食品など250種類の製品を販売。吉備ワークホームの木製地図パズルや、いんべ通園センターのさおりコースターなども並びました。

会場には2日間で4,500人を超える買い物客が来場し、大いににぎわいました。

枝はハンコに実はジャムに…
望の丘ワークセンターから２製品発売

りんごhanko ハレマチ店頭にお目見え

「やたかの里りんご園」のりんごの枝から作られた「りんごhanko」の販売が、12月にイオンモール岡山（岡山市北区下石井）のハレマチ特区365でスタートしました。

望の丘ワークセンターでは、約300本のりんごの木を冬期に剪定し毎年数トンの枝を焼却処分していますが、約2年前、りんごの木の堅い性質に着目し、枝を原材料とした「はんこ」の製作を開始。レーザー加工機をもつ吉備ワークホームに印面の加工を依頼し、乾燥工程などの試行錯誤を経て商品化にこぎつけました。

自然の風合いを生かしたりんごhanko

商品化の過程では、岡山県産業振興財団の「よろず支援拠点」や備前県民局のソーシャルビジネス応援事業で企画立案や販売方法などのアドバイスを受けたほか、アッパービレッジ（有）にもデザイン面で協力いただくなど、官民にわたる応援をいただきました。

ミニ絵本とともに円い小箱に入れて販売

りんごhankoは、自然の風合いを大切にし、りんごの木の皮をそのまま残しているのが特徴です。ラインナップは、イラストとともに「ありがとう」「Happy」などのメッセージを刻印した8種類の「スタンプ」（税込み各1,800円）のほか、購入者の氏名を様々な字体で刻印する「氏名印」（税込み2,800円）も店頭で申し込みを受け付け、作成します。購入者にはりんごhankoができるまでの「ミニ絵本」もプレゼント。世界に一つ、あなただけのりんごhankoを手に入れてみてはいかがでしょうか。

りんごjam 昼の市で試食販売

昼の市で試食販売。「美味しい!」「パッケージも可愛い」となかなか好評

望の丘ワークセンターは、運営する「やたかの里りんご園」（高梁市川上町）で昨秋採れた果実を使った「りんごjam（ジャム）」を製品化し、12月から販売を始めました。

「りんごjam」は一般的ななめらかタイプの「ジャム」と、果実の形を残した「プレザーブスタイル」の2種で、各500個限定。農薬をできるだけ使わずに栽培したりんごの美味しさを味わってもらうため、低糖度（約40度）に仕上げています。

同じ高梁市内のウカンファーマーズファクトリー（同市有漢町）に依頼し、商品開発に取り組みました。加工は同社が、望の丘ワークセンターの利用者がラベル貼り等を行っています。同時期に発売する「りんごhanko」とロゴマークのイメージを合わせることで「“りんご園ブランド”のPRと相乗効果による売り上げに期待したい」（望の丘ワークセンター）としています。

2種の「りんごjam」は12月16日の昼の市に初めて登場。短時間の販売でしたが、通りかかった職員らが試食し、次々と購入していました。また、20日に岡山市内の西川緑道公園で開かれた有機生活マーケット「いち」でも販売し好評でした。

150ｇ入りで、いずれも1個500円（税込）。昼の市や高梁市のポルカ天満屋ハピータウン、同市内の農産物直売所などで販売するほか、各施設で製品案内を回覧してもらい、注文を受け付けています。

望の丘ワークセンターの宮﨑暁弘所長は「りんごは利用者が丹精込めて育てているが、どうしても傷物が出てしまい、やむなく処分していた。地元業者と連携することで“made in TAKAHASHI”の新たな製品として売り出すことができた。ぜひ味わってほしい」と話しています。

昼の市の店頭に並ぶ「りんごjam」

RECIPE 25

きんとん2種

おせち料理を簡単アレンジ

栄養量：1個分
エネルギー：100kcal
たんぱく質：0.7g
食物繊維：1.2g

〇材料（5個分）

フルーツきんとん		若草きんとん	
さつまいも	中1本	さつまいも	中1本
フルーツミックス缶（お好みのもの）	小1缶	栗の甘露煮の瓶詰	1瓶
缶詰のシロップ	適量	瓶詰のシロップ	適量
レーズン	10g	抹茶粉	少量

〈作り方〉

① さつまいもは皮をむいて、2cm幅の輪切りにする。
　缶詰のフルーツと瓶詰の栗は1cm角に切る。
② 抹茶を少量のお湯で溶き、だまにならないように混ぜておく。
③ 鍋にさつまいもとひたひたの水を入れ茹でる。
　やわらかくなったら取り出し、熱いうちにしゃもじの背などで潰す。
④ さつまいもを2等分し、片方（A）には缶詰のシロップ、もう片方（B）には瓶詰のシロップを入れ、なめらかになるまで混ぜる。
⑤ Aにフルーツとレーズンを入れ、さっくり混ぜ合わせる。
⑥ Bに抹茶を入れ、緑色が均一になるようによく混ぜたら、栗の甘露煮も混ぜ合わせる。
⑦ それぞれラップで包んで茶巾にしぼり、形を整える。

おせち料理の定番といえば「栗きんとん」。金塊や小判に例えられ、金運や商売繁盛をもたらすといわれる縁起の良いお正月料理です。フルーツ缶を混ぜた子ども向けと抹茶を混ぜた和菓子のようなきんとんの2種類をご紹介。お正月だけでなく普段のおやつとしてもおすすめです。さつまいもは食物繊維やビタミンCが豊富なので、便秘改善や抗酸化作用による美容効果のアップも期待できます。消化しやすいデンプン質を多く含んでいるので、赤ちゃんの離乳食にもなります。　（旭川乳児院　窪田真佐枝）

ワン ONE POINT ポイント

さつまいもは冷めるとつぶしにくくなりますが、レンジで温めると再びやわらかくなります。缶詰や瓶詰のシロップを使うので、追加の砂糖は不要です。シロップの量を加減して、お好みの甘さに調節してください。

リレーコラム

地域とのつながりを大切に

旭川荘真庭地域センターが湯原温泉街の一角に開所して、はや2年を迎えようとしています。活動時に温泉街を散策していると、いつも地元の皆さんが温かく声を掛けてくださり、とても有り難く思っています。

先日は、温泉旅館のおかみさんらでつくる「リンガーズ」の皆さんがハンドベル演奏をしに来てくださり、素敵な音色で心を和ませていただきました。「はんざき祭り」（8月）や「湯本神社秋の大祭」（10月）などの地元行事やイベントの際にも、積極的に声を掛けてくださいます。私たちも地元の一員として、踊り子になって練り歩いたり、神輿かつぎに参加したり、地域の皆さんとのふれあいを楽しませてもらっています。

豆カレーの包装作業風景

利用者と交流するリンガーズの皆さん（右）

こうした交流がきっかけとなって、湯原温泉特製「豆カレー」の包装作業を就労B型の作業として請け負うようになったほか、真庭地域センターの木工製品を温泉館や道の駅などで販売してもらうなど、利用者の“仕事”につながる新たな協力関係も生まれています。

今後も地域とのつながりを大切にして自分たちのできることに精一杯取り組み、信頼される福祉サービスの拠点として、真庭にしっかりとした太い根を張っていけるよう努めていきたいと思います。　（広報委員　須田篤人）

南相馬市立総合病院の関係者来荘 被災地医療など語る

旭川荘が看護職員を派遣している福島県南相馬市立総合病院から12月11日、関係者3人が療育・医療センターを訪問。職員向け研修会で、東日本大震災直後の緊急対応や原発事故による放射線汚染、復興状況などについて講演しました。

来荘したのは及川友好副院長と林薫看護部長、佐藤理香看護師長。研修会には看護職員ら約50人が参加しました。

福島第一原発から23kmに立地する同病院は、原発事故により緊急時避難準備区域となり、入院の受け入れを一時停止。多くの医療スタッフが県内外の避難所へ派遣されました。

佐藤師長は震災後、悩んだ末に3人の子どもを連れて山形県米沢市へ避難。職場を離れたことで後ろめたさを感じるなど母親として、看護師としての葛藤に言及。同市で南相馬市派遣の看護師として避難所を回る中で同郷の被災者から「こんな遠い所で地元の人に会えて安心した」と声を掛けられ「自分たちの存在価値を教えてもらった」と振り返りました。

被災地の現状について理解を深めた研修会

林部長は避難指示区域が拡大する中での同病院の救護対応について説明。震災から半年後、避難所業務の終了に伴い退職者が増えたことに触れ「南相馬に戻ることを断念せざるを得ず、多くの看護師が退職した」などと話しました。

及川副院長は放射線汚染と同病院の内部被曝検査について解説。地元の食材を食べても内部被曝がないことを示すことで「南相馬に住んでいいということを世の中に発信することができた」と語りました。さらに「多くの人の支えでここまで来た。岡山からの応援に心から感謝します」と謝意を述べました。

「むすびの園」イルミネーションがグレードアップ

旭川荘祇園地区の「むすびの園」で冬恒例のイルミネーションが12月初旬から始まりました。今冬は雪だるまや白熊、汽車などのアイテムを追加し、周囲の生け垣にもLEDを飾りつけるなど大幅にグレードアップ。サービスセンターと療育・医療センターをつなぐ“小路”も輝いています。1月末までの毎日、17時から21時まで点灯しています。

トモニー創立30年記念式典を開催

トモニーグループの創立30周年記念式典が12月5日、アークホテル岡山（岡山市北区下石井）で開催され、末光茂理事長ほか旭川荘関係者やトモニーの支援者、社員ら約150人が参加しました。

山本俊介会長から表彰を受けるトモニーの社員

重度障害者多数雇用事業所トモニーは、昭和62年に旭川荘内での食堂運営を目的とした有限会社として設立され、来年で30年目を迎えます。式典では、設立を先導された故江草安彦先生への特別感謝状がご遺族に贈呈されたほか、支援者への感謝状の贈呈、創立当時から勤務する障害者らへの表彰なども行われました。

続いて行われた祝賀会では障害のある社員が司会を務めて会場を大いに盛り上げ、「共に働き、共に生きる」理念を体現した式典となりました。なお、式典に合わせて30周年記念誌も作成され、出席者に配布されました。

旭川荘ごよみ
SCHEDULE CALENDAR

1月

7日 成人を祝う会（新春もちつき大会）…吉備ワークホーム
12,20日 新成人を祝う会……あおば
14日 成人式……旭川児童院
15日 100枚のマット展（後楽ホテル）……愛育寮
22日 成人を祝う会……ひらた旭川荘通園センター
1次入試……旭川荘厚生専門学院
24日 家族会合同研修会……知的障害関係施設
☆ 新年行事（初詣など）～各施設

2月

13日 療育発表会……みどり学園
医療シンポジウム……北宇和病院
18日 卒業演奏会……旭川荘厚生専門学院
☆ 節分行事～各施設

編集後記

祇園地区の中心にある「むすびの園」のイルミネーションが12月に一新されました。私の目には県内で一番きれいに輝いているように映ります。駅前よりも繁華街よりも。旭川荘には利用者さんの、ご家族の、職員の、いろんな輝きが溢れています。今年もその先も、こうした輝きを皆さんに紹介し、大きく育てていきたいと思っています。

（広報委員長　小幡篤志）